



○ 応援することで、市の発展につなげる

東京2020大会の決定と同時に庁内組織を設置

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた体制等について

コンセプト

- 当市が協力・応援することにより東京2020大会を成功させる
- 地元選手を育成・支援するとともに青少年のスポーツ能力の向上を図る
- 市民がオ・パを契機にワクワクと過ごすことができる活力あるまちづくりを目指す
- 成田空港から30分、東京から1時間(特急)といった地の利を生かしたシティーセールスを行う
- 取組み及び成果を次世代に継承する

推進体制

山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部

- 本部長 : 市長
 副本部長 : 副市長、教育長
 事務局長 : 総務部長
 本部長 : 市民部長、保健福祉部長、経済環境部長、都市建設部長、
 教育部長、会計管理者、議会事務局長
 事務局 : 総務部 東京オリンピック・パラリンピック戦略推進室

推進本部幹事会

- 幹事長 : 総務部長
 副幹事長 : 教育部長
 幹事 : 関係課等の長
 事務局 : 総務部 東京オリンピック・パラリンピック戦略推進室

基本目標

教育部会

- スポーツによる青少年の健全育成
- 国際感覚を身に付けた人材の育成
- 人権教育の推進

招致部会

- 事前キャンプ地の招致活動等
- 九十九里浜に聖火リレーを招致
- ボランティア人材の育成及び活動支援

障がい者スポーツ部会

- 障がい者スポーツの振興
- 障がい者に優しいまちづくり

まちづくり部会

- 「さんむ」の魅力の発信
- 観光客の受け入れ体制の整備・強化
- 成田空港に近いという優位性を活かした経済活性化
- 高齢者の参加促進



○ 二人のキーマンがいた!!

庁内組織で事業を計画する中、いずれかの国の事前キャンプを招致することを決定。

鈴木校長先生 は、長年スリランカ国との里親里子交流を続けてこられました。

そのご縁で、スリランカ日本教育文化センターのチャンダシリ高僧を紹介していただき、

チャンダシリ高僧 が、直接スポーツ大臣と折衝することにより事前キャンプ実施が実現



市の基本計画への位置づけ

- ・ 総合計画
- ・ まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・ 東京オリ・パラ戦略推進基本計画
- ・ 東京オリ・パラ戦略推進アクションプラン

ソフト事業 1.6 億円

ハード事業 4.5 億円

国際感覚豊かな人材の育成
市の知名度向上、地域ブランドの確立等
シティーセールスを実施

○スポーツ省との書簡の交換 平成26年12月17日

- ①事前キャンプの実施
- ②青少年相互交流の実施
- ③スポーツ用品の送付

スポーツ大臣と書簡を交換



○NOCとの基本合意

スリランカ国オリンピック委員会 会長と事前キャンプの実施についてMOUを締結



○招致国事前交流事業

在日本スリランカ国大使・在スリランカ日本国大使との交流

東京2020大会に向け、事前キャンプの際に使用する施設等の視察や、市の取組等を説明しました。



在日本スリランカ国大使
 中学校において『スリランカの中学生生活』について講演していただきました



在スリランカ日本国大使
 市内道の駅『オライはすぬま』のスリランカコーナーの視察

○招致国事前交流事業

スリランカ国スポーツ省・オリンピック委員会との交流

東京2020大会に向け、事前キャンプの際に使用する施設等の視察や、市の取組等を説明しました。



スリランカ国
スポーツ大臣
競技施設の視察



スリランカ国オリンピック
委員会事務局長
競技施設の視察

スリランカ国オリンピックとの交流



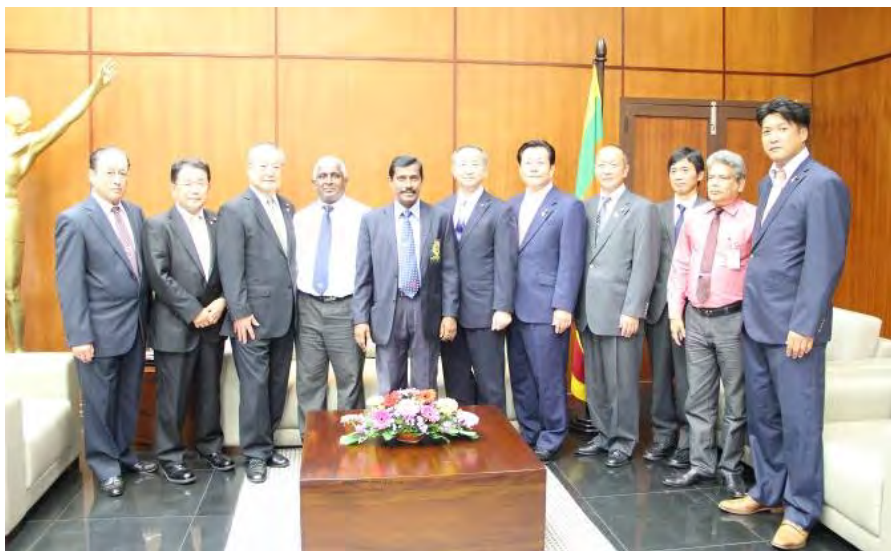
スリヤーニ・クラワンシャさん（オリンピック・100mハードル）の講演より（2015年4月15日）

「ラナトゥンゲ・カルナナダは1964年東京オリンピックでスリランカを代表する男子5,000メートルと10,000メートル競技の選手でした。10,000メートルのレース中、アメリカ出身のビリー・ミルズが先頭でゴールしてから既に4周遅れになりながら、更に他の選手たちがゴールし終わった後も、カルナナダは一人で走り続けました。最初、観客は冷やかしていましたが、彼が二週目に入ったとき競技場は沈黙しました。そして彼がゴールしたとき会場は大きな声援と感動に包まれたのです。」

私は子供のころ、この出来事を学び、いつか私自身もしくはスリランカ代表選手がこういった声援や拍手に包まれる日が来ることを夢見てきました。日本で開催される2020年のオリンピックでは、スリランカがこのように、スリランカらしい色を出していけることを望んでいます。」

○議員研修事業

市議会議員がスリランカ国を訪問し、視察研修を通して交流を行いました。



○招致国事前交流事業

スリランカ国の J I C A 短期研修員を市に招き、ホームステイ等を行い、文化交流を行いました。



○SNECCとの交流

キーマンであるチャンダシリ高僧が事務局長を務めるスリランカ日本教育文化センターをお迎えしました。



○障がい者スポーツ選手等講演会開催事業

障がい者スポーツに関連する選手等を講師に迎え、講演会や競技指導を行います。(写真左：廣瀬 隆喜氏 リオ大会銀メダル)
写真右：藤井 金太郎氏)



○障がい者スポーツ審判資格等取得事業

「ボッチャ」をはじめとした障がい者スポーツの審判員や指導者を養成するための講習会等に参加し、多くの指導者を確保し、市内で実施する障がい者スポーツ大会の中心的な役割を果たし、障がい者スポーツの普及振興を行います。



○ボッチャ体験交流会開催事業

障がい者のみならず、小中学生や高齢者など誰もが参加できる大会の開催を通じ、障がい者スポーツの普及、振興を行います。



○トップアスリートスポーツ教室事業

オリンピック等トップアスリートを招へいしスポーツ教室を開催し、スポーツへの関心を高め、将来のアスリートを育成します。
(写真は為末 大氏)



○スリランカフェスティバルへの参加

市のホストタウンの取組を広くお知らせするため、年に一度開催されるスリランカフェスティバルに出展しました。



○他国紹介出前講座事業

スリランカ国をはじめとした、東京2020大会参加国についての言語・音楽・世界遺産等に関わる出前講座を実施し、各国の文化理解の促進とグローバル人材の育成を目指します。



○一校一國運動事業

小・中学校で、一国を決め、その国の文化や言語等を調べる学習を行います。2020年には、選んだ国の選手たちを学校全体で応援し、東京2020大会の成功に貢献します。



○外語語ガイドマップの作成

ホストタウンとして市内に来遊する外国人のため、英語、中国語及び韓国語版のガイドマップを作成しました。



○図書館オリンピック啓発事業

図書館内にオリンピックコーナーを設け、オリンピックの啓発を行います。



○世界記録可視化事業

世界記録を可視化し、記録の偉大さや世界トップレベルの選手を感じてもらうことにより、オリンピックやスポーツへの興味関心を促します。



○さんむグローバルセンター運営事業

行政と協働し国際交流活動・在住外国人支援・相互理解、また、東京2020大会に向けた事業、次世代に継承する事業等様々な活動を行います。



スリランカカレー教室



シンハラ語・日本語・英語教室



紅茶セミナー

○スリランカ国柔道選手の来市

外務省のスポーツ・フォー・トゥモローにより日本に招へいされた、柔道リオ大会スリランカ国代表選手を当市にお招きし、事前キャンプの際の使用施設等をご案内しました。



○スリランカ国陸上選手合宿先訪問

トレーニングのため来日したスリランカ国陸上選手に対しホストタウンとしてバックアップすることを約束し、激励しました。



○スリランカ青少年招へい事業

スリランカ国から中高生を招へいし、市内中高生の家庭等でホームステイを行い、市内学校での体験授業や文化交流を行います。



○山武市青少年派遣事業

市内に住所を有する中学生・高校生または市内中学校、高等学校に通う生徒をスリランカ国へ派遣し、交流を行います。



